

アートアクアリウムアーティスト木村英智が手掛ける新プロジェクト
能楽をはじめとする伝統芸能が楽しめる空間で日本の食文化を五感で堪能

すいぎあん
劇場型レストラン&ラウンジ「水戯庵」
2018年3月20日(火) 東京・日本橋にグランドオープン



店舗イメージ



公演イメージ

東京の中心地である日本橋に佇む由緒正しき福德神社に隣接する福德の森。その福德の森の地下にオープンする「水戯庵」は、世界無形文化遺産にも登録され、日本最古の芸能である“能楽”をはじめとする日本の伝統芸能が楽しめる空間で、日本を代表する寿司、お酒、お茶、甘味を五感で味わうことができる新感覚の劇場型レストラン&ラウンジです。

金魚に特化し、日本的な作品を集めた「アートアクアリウム 金魚シリーズ」や伝統産業を現代アートに変える展覧会「江戸桜ルネッサンス」を中心に、これまでも独自の手法で和の世界を表現してきた木村英智。「アートアクアリウム」が誕生して10年が経過し、日本文化と真剣に向き合う中で、伝統工芸や伝統産業、そして伝統芸能の魅力を新たな手法で表現したいという想いが強く芽生えてきました。そんな木村英智の想いを体現したお店が「水戯庵」です。

“日本を嗜み愉しむ”を基本コンセプトとし、店内は日本が誇る巧緻を極めた伝統工芸の要素を取り入れた室礼となっており、粋で艶やかな和の空間が広がります。中央には、江戸時代に狩野派が描いた鏡板が象徴的な三間四方（約5.4m四方）の舞台を設置し、能や狂言、日本舞踊をはじめとする伝統芸能が毎日繰り広げられます。

この舞台には、能五流（観世流、宝生流、金春流、金剛流、喜多流）、能楽囃子方各流派、狂言二流（大蔵流、和泉流）のほか、京舞井上流、日本舞踊花柳流、藤間流、琉球舞踊宮城流、文楽、雅楽や華道家元池坊といった、日本の伝統芸能を代表する各流派が日替わりで出演する、日本でも唯一の場所です。

また、現存する最古の江戸前寿司処「すし栄（えい）」の寿司、200年以上の歴史をもち日本の茶文化を守り伝えてきた京都の老舗茶舗「福寿園（ふくじゅえん）」のお茶、京菓子の老舗である「老松（おいまつ）」や「亀末廣（かめすえひろ）」の甘味などのメニューを取り揃えており、日本の食文化を五感で味わうことができます。アルコールメニューは、食通・ワイン通としても知られる俳優 辰巳琢郎氏がセレクト。純国産ワインや日本酒、ウイスキー等のドリンクメニューをご用意しております。

「水戯庵」では、日本古来の芸術、芸能、食を発信し、国内外問わず多くの人々に日本の伝統文化、日本らしさを体験してもらえる文化施設として、日本橋のより一層の発展を目指してまいります。

●— 五感で日本文化を味わう 「水戯庵」の特長 —●

視覚	店内に設置した舞台上で繰り広げられる、能や狂言、日本舞踊をはじめとした伝統芸能
味覚	江戸前寿司処「すし栄」のお寿司、京都の老舗茶舗「福寿園」のお茶など日本を代表する食
聴覚	囃子方が奏でる鼓や笛など、和楽器による音色
嗅覚	香老舗「松栄堂」のお香による、和の雰囲気醸し出す香りの演出
触覚	江戸・明治・大正期の時代物で取り揃えた漆器や膳など、繊細で華やかな器たち

●— 水戯庵が提供する伝統芸能の楽しみ方 —●

- 見：**能装束による見ため華やかな演目
聞：お囃子による和楽器の演奏が入る演目
心：伝統芸能をより良く理解して楽しむ為のアカデミックな演目
宴：語らいの場に花を添える芸納言による演目

●— 「水戯庵」を象徴する舞台 —●

「水戯庵」には、能舞台の形式にならい、老松を描いた鏡板を背景にした三間四方（約5.4m四方）の舞台が設置されています。この鏡板は、もともと京都室町夷川にあった観世流能楽師片山家、京舞井上家ゆかりの舞台のもので、老松の絵は狩野派の絵師によるものです。この歴史深い鏡板を、ご縁があって移築することができました。「水戯庵」ではこの舞台で毎日、能楽をはじめとして様々な伝統芸能が上演されます。



●— 店内を彩る伝統工芸品の数々 —●

陶器・漆器・膳

「水戯庵」でお料理を提供する膳や器の多くは、遠く長崎の閑静な神社境内に佇む老舗料亭「富貴楼」から引き継いだものです。「富貴楼」の歴史は深く、創業は百有余年。その長い歴史の中では、かの伊藤博文も足を運んだと言われています。長きにわたり数多の客人をもてなしてきた「富貴楼」はその歴史に区切りをつけ、2017年から休業しています。百有余年のもてなしの心が詰まった器の数々を「水戯庵」が継承していきます。



八十四 能面

大阪の能楽公演の拠点として親しまれていた「大阪能楽会館」が、約60年の歴史に幕を閉じ、2017年に惜しまれながら閉館しました。その「大阪能楽会館」に寄贈・展示されていたのが、能人形の製作を手掛けて80年あまりの歴史を誇る二条人形工房作の能面（ミニチュア）八十四面です。「水戯庵」では、この八十四面を引継ぎ、展示しています。「大阪能楽会館」の歴史を見守ってきた個性豊かな能面たちが、これからは「水戯庵」の歴史を見守っていきます。



浮世絵・版画

「水戯庵」では、エントランスから客席に抜ける通路をギャラリーとして、江戸・明治・大正期に製作された浮世絵や版画の数々を展示します。

「東海道五十三次（行書版）」、能の演目を描いた「能楽百番」、かつての日本橋室町周辺を描いた「東京駿河町三ツ井正写之図」などなど様々な浮世絵や版画を収蔵しています。定期的に入れ替えを行いますので、ご来店いただくたびに違った作品をお楽しみいただけます。



●— 提供メニュー —●

ランチタイムおよびディナータイムメニューは、「すし栄」による江戸前寿司、大阪寿司、茶巾寿司のコース料理、ティータイムメニューは、「老松」の主菓子、「亀末廣」の干菓子と「福寿園」のお茶コースが織りなす、和のアフタヌーンティーセットをご用意しております。いずれのメニューも江戸、明治、大正時代の時代物（ビンテージ）の膳や器を中心に提供いたします。



提供メニュー（イメージ）

ランチタイム（12：00～13：30）※4月24日現在

料金：一人あたり 6,500円（税込）～12,000円（税込）

献立：水出し玉露、先付、江戸前寿司、大阪寿司、茶巾寿司、汁物、玄米茶、菓子

ティータイム（15：00～16：30）※4月24日現在

料金：一人あたり 6,500円（税込）～12,000円（税込）

献立：桜茶、茶巾寿司、水出し煎茶、主菓子、干菓子、抹茶（薄茶）

ディナータイム（19：00～20：30）※4月24日現在

料金：一人あたり 9,000円（税込）～18,000円（税込）

献立：水出し玉露、先付、江戸前寿司、大阪寿司、茶巾寿司、汁物、玄米茶、菓子

※各時間帯は完全入替制。料金は座席によって異なります。

※セットメニュー以外のお飲物（お酒類等）をご注文される場合は別途料金となり、ラウンジタイムは10%のサービスチャージをいただきます。

※ランチタイム、ティータイム、ディナータイム、ラウンジタイムの提供時間は、当面の時間を記載しております。

※各提供時間は今後変更の可能性もございます。公式ホームページ（<https://suigian.jp>）をご確認ください。

ラウンジタイム（20：30～24：00）※4月24日現在

夜の水戯庵もまた他にない魅力的な社交場となります。

江戸の時代に名を馳せた幻の料亭「百川（ももかわ）」にちなみ、20：30以降は、「百川ラウンジ」と称し、ラウンジスタイルでご利用いただけます。「百川ラウンジ」では“文化人が集い、知的な会話を楽しみ、伝統芸能を語り、時には粋な遊びをするサロン。”をコンセプトとし、文化的な非日常空間を演出いたします。ラウンジタイム限定の創作お茶漬けなど、こだわりの一品料理と日本中から集めたお酒をご用意しています。

また、芸納言と呼ばれる女流芸能師による演舞や演奏が毎晩（日曜、祭日を除く）繰り広げられるのも、百川ラウンジの最大の特徴であり、いつでもハイレベルな本格的なお座敷文化を体験できる他に類を見ない特別な空間です。

「百川ラウンジ」限定メニュー（一例）

百川茶漬け ～福寿園のお茶と～

天然真鯛の胡麻和え

にぎり寿司（5貫盛り）

野菜のお寿司（5貫盛り）

※お一人様あたり1,000円のテーブルチャージとご飲食の10%をサービスチャージとして頂戴いたします。

すし栄

嘉永元年(1848年)、京橋大根河岸で青物問屋を営む倉田家(や)の五男の栄蔵が、神田旅籠町三丁目(現外神田一丁目昌平橋近く)に開業。現在は五代目倉田元治が暖簾を継いでいる、現存する最古の江戸前寿司処です。



<すしの歴史>

すしは、魚と飯を自然発酵させた馴れずしが起源。江戸時代に入ると、魚に塩、飯に酢で味をつけ一晩漬ける早ずしが発達。関西では箱に詰める大阪寿司(箱ずし、押しずし)として発展しました。一方、気の短い江戸っ子には押す時間が待ちきれず、魚と飯をにぎった江戸前寿司(にぎり寿司)が発展。その後、大正時代に伏見宮家の茶席で、五目酢飯を薄焼玉子焼で包んだ茶巾寿司が創作されました。

大阪寿司は、魚にも飯にもしっかりと味をつけ、醤油をつけないで食べます。一方、江戸前寿司は生魚を使うのが主流となり、ネタに醤油をつけて食べるようになりました。また、大阪寿司は当時から高級品だった米酢を使っていますが、江戸前寿司は当時、安値で入手できた酒粕から作る粕酢(赤酢)を使っていました。

福寿園

福寿園は古く、寛政2年の創業で大阪・神戸に通じる木津川の船着場として、また大和・伊賀街道の交叉地として諸物の集散地であった山城国上狹(現京都府木津川市山城町)に福井伊右衛門により茶商として始まりました。

日本の心と生活を支えてきた茶を国を越え、時代を超え、世界の人々に幸せな時と場をつくりだすものとして、日本はもとより世界へ展開することを目指しています。



老松

老松当家は宮中で祀りごとに携わる宮廷祭祇官の流れをくみ、宮中での儀式、典礼に用いられる菓子や茶席の菓子を手がけたことから、屋号を有職菓子御調進所としております。日本の文化では菓子が大きな役割を果たしています。人が集まるところに文化が生まれ、日本の文化を大切に守っていくため、老松は京菓子の伝統をふまえながらもたえず新しい息吹をふきこんでいます。



亀末廣

二百年に近い昔に、伏見醍醐の釜師であった初代・亀屋源助は文化元年(1804年)に京の街に出て〈亀末廣〉を創業しました。江戸時代には徳川家が宿館とした二条城、さらには都が江戸に遷るまでは御所にも菓子を納めていたと伝えられています。老舗が並ぶ京都・姉小路通りの中でも一際目を引く「御菓子司 亀末廣」の看板は、一回だけの使用で用済みとなった木型がたくさん残っていたことから、これを額に用いています。

四季折々の草花を巧みにデザイン化し、風化と色彩豊かな「干菓子」で表現する手法を創案したのは、三代目当主であるといわれています。その姿形や色彩は、そのまま俳句や和歌の素材にもなるような、風流を感じさせるものばかりとなっております。



松栄堂

香老舗 松栄堂

およそ300年前、京都に創業したお香の老舗、松栄堂。

伝統の香りを支える素材は、東南アジアを中心に世界各国から運ばれる貴重な天然香料。これらは調合師の研ぎ澄まされた感覚によって、最良の香りが引き出され、熟練の手わざで形となります。いっぽうで最新鋭の技術も導入し、現代人のライフスタイルにふさわしいアイテムの創造にも、意欲的に取り組んでいます。松栄堂が香りに託してお届けするのは、大自然の恵み。繊細な和の香りは現代人の心のうるおいとして、世界の国々でも愛用されております



鍋島緞通

緞通とは？

敷物用織物の一種。中国語のダンツ（毯子）のあて字が起源。手織りの重厚な絨毯で、主に小ぶりで方形のものをさすが、絨毯と混用されることが多い。製法は綿や麻の地糸に毛を一目ずつ手で結んで植えたのち、包丁か鋏で切って立毛する。非常に手間がかかり高価である。日本へは江戸時代にその技術が伝わり、佐賀の鍋島緞通に始って堺、赤穂でも製織された。



鍋島緞通とは？

水戯庵で使用されている絨毯は、日本緞通文化の起源である鍋島緞通です。

誕生は、今から約 300 年前、江戸元禄年間（1688 年～1704 年）のこと。佐賀藩三代藩主鍋島綱茂候は鍋島緞通評判を聞きおよんでよろこび、扶持米を与えて技術を保護。佐賀藩御用達となり、一般への売買が禁止されたといわれています。

現在残る鍋島緞通の織元は吉島家のみであり、水戯庵ではこの吉島家に緞通の製作を依頼し、特注サイズで一から織り上げていただきました。

茶室

水戯庵には茶室があります。ラウンジタイムなど、プライベートなお茶も催されます。床の間には、季節の移ろいを感じる、いけばなや、象徴的な掛け軸などが飾られています。本日は、川喜多半泥子の作の掛け軸がかけられています。



川喜田半泥子（かわきた はんでいし）

東の魯山人（ろさんじん）、西の半泥子（はんでいし）と呼ばれ、「近代陶芸の父」と評される。

陶芸家・実業家。百五銀行頭取。三重県生。名は久太夫、号は泥仏堂・無茶法師・莫迦野廬等。趣味人として書画・俳句を好み、茶の湯を十一代久田宗也に学ぶ。また早くから陶器に傾倒し千歳山の自邸に窯を築き茶陶の製作にあたった。のちこの窯を長谷山下の広永に移し弟子を養成した。昭和 38 年(1963) 歿、86 才。



いけばな

水戯庵に季節の移り変わりを感じさせくれるいけばなは、いけのぼう次期家元池坊専好によって監修されております。

金箔



日本の金箔生産量の98%以上を占める金沢の本金箔（24金）を、エントランスの壁に使用しています。

ブルーシーフード

「水戯庵」では、持続可能性の高い、地球にやさしい海産物『ブルーシーフード』をご提供します。近年の地球温暖化や漁業の乱獲などが原因で、海産物には枯渇の危機が迫っているといわれています。資源量が比較的豊富な[ブルーシーフード]をリスト化した[ブルーシーフードガイド]は、「おいしく、たのしく、地球にやさしく。」をモットーに、楽しみながら持続可能な選択ができるよう知識を提供するものです。



● 「水戯庵」について ●

店 名： 水戯庵（すいぎあん）
住 所： 東京都中央区日本橋室町2 - 5 - 10 B1F
アクセス： 東京メトロ 銀座線・半蔵門線三越前駅A6出口より
徒歩1分
営業時間： 11:30～24:00 (L.O. 23:30)
定休日： 年中無休（元旦を除く）
席 数： 56席
電話番号： 03-3527-9378
(受付時間：10:00～21:00（平日）/10:00～19:00（日曜、祝日）)
公式ホームページ： <https://suigian.jp>



「水戯庵」に込めた想い

この度、わたくし木村英智は、江戸の時代より人・物・文化が集まる日本の街道の起点である、日本橋の地に今までであるようで無かった全く新しい形の文化サロンである「水戯庵」をオープンさせて頂く運びとなりました。

そして開業の地は、古来よりこの地に鎮座する「福德神社」に隣接し、江戸から明治にかけて隆盛を誇った「料亭百川」の由来の地でございます。この由緒正しい地に相応しい施設を作るにあたり思い描いたのは、改めて正しい日本文化の魅力を発信する場でありました。2020年の東京五輪に向けての影響もあり、昨今の日本における日本ブームの中で、変化に富んだ解釈の日本文化が沢山発信されております。その中で、敢えて変化ではなく正しい進化を続ける日本文化と出会う場所を創出させて頂きました。アートアクアリウムが誕生し12年、その成長の中で本物の日本文化との出会いがあり、その創作活動を通じて育てられて参りました。アートアクアリウムを応援して頂いているファンの方も同じく時を重ねておりますので、一緒に新しい扉を開きたいと思っております。

「伝統と革新・蘇らせながら創っていく」をテーマに、初めて体験する非日常世界をご用意してお待ちしております。心からのおもてなしも用意しておりますので、是非とも足をお運び頂き楽しんで頂ければ幸いです。

水戯庵 主人 木村英智

● 木村英智（きむら ひでとも） プロフィール

水戯庵 主人

アートアクアリウム アーティスト

株式会社 エイチアイディー・インターアクティカ／代表取締役

アクアリウムクリエイターズオフィス Srl./CEO



1972年、東京に生まれる。“アート”“デザイン”“エンターテインメント”と、自身がライフワークとして追及している「アクアリウム」を融合させる『アートアクアリウム』という分野を発案・確立したアートアクアリウム アーティスト。変幻自在な水槽デザイン、ハイレベルな水質調整、知り尽くした生体管理と組み合わせられる『アートアクアリウム』という独自の分野を確立させ、アクアリウムを用いて美術館でアートとして有料展覧会を開く唯一の存在となる。

展覧会におけるインテリア、ライティング、映像、音楽、空間構成も自らデザイン・監修する。現在では『江戸桜ルネッサンス』などを初めとする、日本の伝統産業を現代アートとして展開する新たな試みにも取り組んでおり、そこで培った経験を活かして『アートアクアリウム』の展示をリアルジャパンとして日々進化させている。その独自の世界に伝統芸能の舞台を展開させるなど、動静様々な文化を取り入れながら『アートアクアリウム』という自身が創った日本発の新しい分野を世界に向けて発信し、2016年には活動10周年を迎えた。

東京・六本木ヒルズ 森アーツセンターギャラリーで開催された『スカイアクアリウム』、金魚に特化し日本的な作品を集めた『アートアクアリウム 金魚シリーズ』は特に有名で人気が高く、今日現在（2018年2月末）までに、累計810万人の有料入場者を動員している。

アーティストとしての活動の傍ら、車趣味人としての活動も目覚ましく、そこで自然と培われた自動車界へのパイプが太い。2009年の『東京コンクールデレガンス』を皮切りに、『ジャパン・クラシック・オートモビル』などの総合プロデューサーを歴任し、世界遺産である元離宮二条城にて『コンコルソデレガツァ京都』を開催し、世界レベルのビンテージカーコンクールイベントを成功させた。現場を指揮れる若手エンスージアストとして、自動車文化を後世に残す役割も期待されている。そして2018年、自身が近年のライフワークとして取り組んできた伝統文化の継承やリアルジャパン復興の集大成ともいべき“新感覚の劇場型レストラン&ラウンジ「水戯庵」”をオープンさせた。

● 大倉源次郎（おおくら げんじろう） プロフィール

水戯庵 相談役

能楽小鼓方大倉流十六世宗家（大鼓方大倉流預かり）

公益社団法人能楽協会理事

一般社団法人東京能楽囃子科協議会理事

一般社団法人日本能楽会会員

重要無形文化財保持者



昭和32年（1957年）9月7日大阪生まれ。「流派を超えて21世紀の能を考える「能楽座」座員。能公演はもとより、誰もが日本文化である能と気軽に会えるよう「能楽堂を出た能」をプロデュース。平成29年に淡交社から「源次郎能楽談義」として能楽囃子方の立場から能の魅力と紐解き、各界の著名人9名の能楽との関わり方をコラムで紹介、世界各地での能楽公演の画像など能楽の魅力が満載された能楽案内本を出版する。

● 片岡鶴太郎（かたおか つるとろう） プロフィール

水戯庵 題字

高校卒業後、片岡鶴八師匠に弟子入り。3年後、東宝名人会、浅草演芸場に出演。その後、バラエティー番組を足掛かりに広く大衆の人気者になる。目下、幅広いキャラクターを演じられる役者として活躍し、日本アカデミー賞最優秀助演男優賞など数多くの賞を受賞。

画家としては、1995年に初の絵画展「とんぼのように」を東京で開催。以降、毎年新しい作品での個展を開催している。2001年、初の海外個展をフランス・パリにて開催し、好評を博す。2011年、初の本格的仏画を出展。2013年に第69代横綱白鵬の化粧まわしのデザインを担当し、伊勢神宮で奉納・お披露目された。2015年3月、書の芥川賞といわれる「第10回手島右卿賞」、同7月「第32回産経国際書展功労賞」を受賞。2016年4月より、羽田空港国内線第1旅客ターミナルにて、放送作家・小山薫堂氏とのコラボレーション作品11点を「旅する日本語展」として広告掲出。

また2017年5月、インド政府公認プロフェッショナルヨガ検定に合格し、インド政府より、ヨガマスター、ヨガイストラクターの称号を授与され、第1回ヨガ親善大使にも任命される。



● 辰巳琢郎（たつみ たくろう）プロフィール

水戯庵 酒セレクター

大阪市出身。京都大学文学部卒業。在学中は『劇団そとばこまち』を主宰。卒業と同時にNHK連続テレビ小説「ロマンス」にて全国区デビュー。以来、知性・品格・遊び心と三拍子揃った俳優として幅広く活躍している。

食通・ワイン通としても知られ、日本ソムリエ協会名誉ソムリエ、日本ワインを愛する会副会長のほか、海外のワイン騎士団からも数々の騎士号を贈られている。

自ら企画した『辰巳琢郎の葡萄酒浪漫』（BS ジャパン日曜夜 11：30～）が好評放映中。

囲碁、俳句、乗馬など、趣味も多彩。また、『くいしん坊！万才』（フジテレビ）以来、地域おこしにも熱心で、数々の観光・文化大使に就任するほか、2011年より観光庁アドバイザーを務める。著書は『道草のすすめ』、『ゼロから始めるワイン入門』、『ほんとうは教えたくない京都の路地裏』他多数。

日本棋院評議員。近畿大学文芸学部客員教授。国連WFP協会顧問。



● 井植美奈子（いうえ みなこ）プロフィール

水戯庵 サステナブルフードプロデューサー

セイラーズフォーザシー日本支局理事長。ディビッド・ロックフェラーJr.氏が率いる海洋環境保護NGOの日本支局を設立。水産資源の持続可能な消費、海洋環境改善で持続可能な社会を目指す。

京都大学大学院 非常勤講師、慶応義塾大学 SFC 研究所 上席所員

連載コラム

Forbes Japan Online 「海洋環境改善でめざす持続可能な社会」

25ans Online 「井植美奈子の Save the Ocean」



● 協力

一般財団法人 衆我財団

衆我(しゅうわ)は芸術文化、とりわけ我が国の伝統芸能の発展に資する活動を助成することを目的としています。